

第 73 号

発行所 〒157-8560

東京都世田谷区成城1-13-1

東京都市大学附属中学校・高等学校内

電話 03-3415-0104

発行責任者 安藤友二

編集責任者 川鍋勝弘



東京都市大学附属中学校・高等学校〈同窓会ホームページ〉

<http://tcu-kasiwa.org/>



校長就任のごあいさつ

東京都市大学附属中学校・高等学校校長

皆川 勝



この4月より、東京都市大学附属中学校・高等学校の校長に就任いたしました。「むさこう同窓会」の皆様には、日頃より、本校の教育や運営のため、ご支援をいただきありがとうございます。

ます。

始めに簡単に自己紹介をさせていただきます。私は、1979年に武蔵工業大学を卒業し、同大学院修士課程を修了しました。その後、母校に教職を得て、2020年度まで東京都市大学(旧武蔵工業大学)の教員として40年間を務めました。教員としての最後の3年間は副学長として都市大の教育全般を担当いたしました。

私の大学時の専門は土木工学です。英語ではCivil Engineeringといわれるように、「市民・社会のためにどのように工学を活用するか」という学問分野です。特に「理系の人材における文系的な知見・センス」、「文系の人材における理系的な知見・センス」が大変重要な分野です。一方、トシコー(旧ムサコー)は国立志向の生徒が多く、しかも理系教育に武蔵工大付属の時代からの伝統があり、すでに全生徒対象のSTEAM教育、幅広い教養教育、アクティブラーニングも長年にわたって中等教育機関として実践しています。生徒たちには、何事にも知的好奇心をもって前向きに取り組むことの重要性を説いております。

さて、専門家には知識(Knowledge)、スキル(Skill)、態度(Attitude)の3つが必要であると言われます。生徒たちの学びにおいても、あるいは部活などにおいても、知識の獲得やスキルの向上(What do you learn?)は必須ですが、いずれにも学ぶ態度(How do you learn?)は重要です。

「学ぶ態度」は「価値観」(Why do you learn?)から生まれます。学ぶことが「どのように役立つのか?」、「どのように大切なのか?」、「どのような満足感につながるのか?」という問いに対する答

えが、生徒一人一人の「価値観」を形成するよう手助けをすることは学校の重要な使命です。

中高生は生徒、大学生は学生、と日本では呼ばれます。海外では、生徒も学生もstudentsです。動詞はstudy、「勉強する」と訳すこともありますが、「研究する」という意味もあります。もともとは「何かに没頭する」という意味です。学びは単に与えられるものではありません。「学びたい」という気持ちが大切です。生徒ひとりひとりの「自ら学ぶ」気持ちを大切にして、先生方と協力して生徒たちを応援したいと思っています。

都市大の建学の精神は「公正・自由・自治」です。自由にはいろいろな意味があります。英語では、freedomは「拘束からの自由」を、libertyは「選択の自由」を意味します。また、オーストリアの精神科医・心理学者であるヴィクトール・フランクル(1905-1997)も自由の意味を教えてください。彼とその家族はユダヤ人としてアウシュビッツ強制収容所に収容され、すべての家族を失いましたが、本人は生き残りました。フランクルによれば、人間は「何かからの自由」と「何かへの自由」という二つの自由性を有しており、特に後者の自由は良心に基づいて行動することの「選択の自由」であり、これこそが人間の人間たるゆえんであるとされています。本校の生徒ひとりひとりが大きな「選択の自由」、「何かへの自由」を得られるように、東京都市大学グループのグループ歌「夢に翼を」における、「翼」を持つことができるように、尽力したいと思っています。

校名変更までは「ムサコー」の愛称が定着していた本校が、「トシコー」となって10余年が過ぎました。武蔵工業大学や附属中学校高等学校の卒業生の方々からは、校名が変更されて愛着が薄れたという言葉の時おり耳にします。固有名詞が変わってしまったのですから、よっぽど深くコミットしていないかぎり愛着が薄れるように感じるのには仕方ないことかもしれません。しかし、人間の血脈のように、本校という実体に受け継がれる精神や伝統があれば、名称の変更を乗り越えて、本校の在校生・卒業生の繋がりをこれからもさらに強固にしてゆくことはできると思います。好例としては、卒業生によるキャリアスタディ活動が挙げられます。この取り組みは、本校の完全6年一貫教育のなかで、生徒たちの学習

意欲の増進と人間的な成長にとって極めて重要な意義を有しており、本校の教育成果に直結しています。「ムサコー」卒業生の方々のご支援を通じて、「トシコー」生は着実に成長を遂げています。ぜひ本校と本校の生徒たちをこれからも愛情をもって見守り、またご支援をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。



同窓会では本年もキャリアスタディのプログラムを支援しております。

年間を通して取り組むいくつかのプログラムの中で「企業研修」がハイライトですが、本年もコロナ禍での開催が困難と判断し、昨年と同様に代わりのプログラムを実施する事に決めました。

このような状況においても実施可能なプログラムについて協議を重ね、安全面の対策を取りながらいくつかのプログラムを実施して来ました。

今回は本年度のこれまでの活動について紹介します。

まず6月に毎年実施している「業あり先生」を開催しました。

社会で活躍するOBによる講演会のプログラムで、昨年に引き続き以下の6名のOBに講義をして頂きました。

ここではお名前のみ紹介させていただきます。

鈴木威一氏、久野新一氏、宇田川晴義氏、長倉明彦氏、立野慶氏、小林隆之氏

次に9月には「考えてみよう！30歳の自分」と題し、パネルディスカッション形式のプログラムを開催しました。

パネラーを20代後半のOBで構成し、近い将来の自分像を考えるためのプログラムです。

中学生にとっては歳の近い先輩に対しては親近感を持って、将来像や今の自分に必要な事をより自分事として考えられたのではないのでしょうか。

一方、先生方は自分の教え子が社会に出て成長した姿を見て大変嬉しそうにされていたことが印象的でした。

同窓会側としても20代の考えを聞く事が出来た点や、世代をまたいだ交流ができた点でも大変有意義でした。

このプログラムは初の試みでしたので、今号ではパネルディスカッションのやり取りの一部を紹介します。

●パネラー（8名）



青木 涼
(高校56期 サッカー部)
株式会社ファーストリテイリング デジタル業務改革部



中島 龍一郎
(高校56期 テニス部)
板橋中央総合病院 消化器病センター 外科医



橋本 佳為
(高校56期 テニス部)
日本航空株式会社 運航業務部 業務グループ 主任



岡庭 翔一
(高校57期 自転車部)
いであ株式会社 港湾部 研究員

1. 中高生当時の自分に言ってあげたいこと(後悔) — 当時に戻れるならこうしておけばよかった、あれを我慢すべきだった、など。

浦野 漫画やゲームに逃げず勉強に立ち向かう心を養うべきだった(今の時代はスマホがあるので当時の自分なら余計に無理そうですが…)。テストのために勉強するのではなく受験や将来に使える勉強をすればよかった(そうすれば受験勉強ももっと楽だったはず…)。

大野 英語や国語の言語の勉強をしっかりしておくべきだったと感じます。なぜなら英語は仕事の活躍範囲が広がり、国語は仕事をするためには他人に伝える・説明する力が重要となってくるからです。



野口 弘毅
(高校 57 期 自転車部)
横浜市交通局 工務部建設
改良課 計画係



渡邊 裕介
(高校 57 期 鉄道研究部)
東急バス株式会社 運輸事
業部運輸計画部計画課



大野 幸宏
(高校 59 期 自転車部)
NTT コムウェア株式会社
ネットワーククラウド事業本
部



浦野 雄大
(高校 61 期 吹奏楽部)
ボッシュ株式会社 クロス
ドメインコンピューティン
グソリューション事業部

岡庭 英語が話せるように勉強をしておけばよかった。後輩社員が外国の方なので現在、苦労している。

野口 今の私生活、仕事に満足しているので、中高生時代に大きな後悔はあまりないですが、あえて自分に言うとしたら、経験して無駄になることは一つも無いから色々なことに挑戦してみてと声を掛けてあげたいです。それと色々な大人(両親、先生以外)から色々な話を聞いて見るのも刺激になっていいかもしれないです。

渡邊 もっと素直になって、わからないことを早いうちに聞いてみなと声を掛けたいです。高校1年、何かの奇跡で当時アドバンスクラスにいました。クラスの中では下のほう。皆の頭が良い中で、何かわからないことを質問することに対して後ろめたさがありました。自分に素直になれなかった分、

高校2年からはスタンダードクラスに籍を置くことになりました。変なプライドを捨て、傷が浅いうちにうまく聞けるようになって成長していった方が、将来有意義な生活が送れるものだと思います。社会に出る前に挫折を経験したことで、つらいことにも早めに対処できるような耐性がついたのだと思います。

中島 いろんな事にチャレンジするべきだった。

橋本 「世の中にどんな仕事があるのかを、もっと知ろうとすればよかった。」当時、大学って何のために行くのか、あまり自分の中で明確なものが無く、一先ず大学に行くのが当たり前、大学に行く事が目的で、勉強しないといけないんだ、という意識だった。正直どんな大学に行きたいのか、どんな学科に行きたいのか、その辺りが分からなくてモヤモヤしていた。今思えば、どんな仕事に就いてみたいかを考える、そこまで行くのは難しいにしても、世の中にどんな仕事があるのかを、もっと知ろうとすればよかった。そうすれば恐らく、大学に行く意味や、どんな大学に行きたいか、という明確なものに代わっていただろう、と思う。というのは、自分が就職を経験してみて、大学で勉強したことが、やりたいこと＝仕事で活かせることは、大きな武器になると思った。つまり、やりたい仕事や、大学・学部を選択に繋がっているということであり、皆さんの身近なところで言えば、進路の選択に関わってくるということ。

そういった経験を振り返って、「自分は何をしたいか」、そして「そこに向かって何をすれば良いか」という「計画を立てること」が大切だと思っている。

なので、大学に行くことが目的になっていた自分に対して「まずは、どんな仕事や世の中にあるのかに興味をもって調べてみたら、それが、おのずと“どんな仕事をしてみたい”や“どんな大学・学部に行きたい”“じゃあ、どんな勉強をしなきゃいけない”といった計画を立てることにつながるし、勉強を頑張ろう、というモチベーションにも繋がるから、と言いたい。

青木 ・英語のスピーキングの経験を積んでおけばよかった“発音の練習”ではなく、人と人との会話⇒理由：現在、仕事で英語を利用する場面が多いが、自分がビジネスで利用する範囲の内容については、ある程度慣れ(会話の流れからの予測等)で乗り切れる。しかし、雑談のようなNon-ビジネスの会話は、あまり話す機会が無く、いざその場面に出くわすと話題がどんな角度から飛んでくるかわからないので、難しいと感じるため。また、雑談は勉強で学ぶようなかっちりとした英語ではなく、い



わゆる口語で会話が繰り広げられるため、それについてもなかなか慣れるのが大変なため。
・少人数や一人で行える趣味を見つけることや自分への投資⇒理由：自分はずっとサッカーをやってきて、今も趣味で社会人サッカーをやっているが、周りも社会人になり、家庭も持つとなかなか団体スポーツを定期的に行うことが難しいと感じることがあるため。また、いざ新しい趣味を見つけようと思っても日々の忙しさに忙殺されてしまい、なかなか踏み出せなかったりすることが多い。そのため、一番自分のために時間を使える中高大の学生時代に自分が没頭できる趣味や自己啓発に時間を使うことで、その後の社会人生活でも On - Off が切り替えられ、適度にストレス発散することが容易なのではないかと思う。

2. 今の職業に就こうと思ったきっかけは？——積極的なきっかけがあったならば「いつ頃、どのようなきっかけ」であったか。

浦野 ①大学3年前期に制御工学という授業に出会い、自分の本当に好きな教科が見つかった（とても厳しい教授だったがその先生の研究室に行った）②大学3年生の終わり（春休み）に自動車免許を取り、自動車の開発に携わりたいと思った。③大学2年の終わり（春休み）に1ヶ月カリフォルニア州に留学行ったことが後押しとなり、英語で話せる環境に身を置きたくなった。

大野 大学在学中に通信についての講義があり、講義を受けていくうちに過去の通信や未来の通信に興味を持ち、システムエンジニアに就こうと思いました。もっというと中学時代からパソコン使っていて遊んでいたこともあったのが根底にあるのかもしれません。

岡庭 大学1年生の春休みに東日本大震災を経験し、大規模地震には最小限の被害で耐えることができたが、その後襲来した津波には全く歯が立たず、たくさんの人命を失ってしまった。少しでも、人命を救えるような人材になりたいと思い、港湾関係の設計ができる会社に入社した。

野口 大学4年生で研究室に入ってから、基礎自治体（新潟市、さいたま市）の方とやり取りをさせてもらう機会があり、その方たちが市民の方と楽しそうに仕事に取り組まれているのを見たのがきっかけです。

渡邊 中高のバス通学の影響が大きかったと思います。利用者として感じたこと、定期券があったことにより路線図に詳しくなり、今の仕事には大きく影響しました。東急線・バスが好きで、いつかは新規路線事業に携わってみたい。路線新設の可能性も、鉄道に比べバスは高いのではないかと思います。当時就活をしました。てっけんはOBの関係も密であり、先輩方からの経験談や助けもあり、志望業界へと進めました。

中島 父が医師だったこともあり子供の頃から自然と志していました。

橋本 そもそも、就職するにあたって2点考えていた。①「自分が仕事をしていくうえで、好きだと思うこと、興味があると思うことに関わりたい」②「大学で勉強したことを活かしたい」というものの。

【①小さいころ飛行機に乗った時のあるエピソードが心に残っていた】

父の仕事でインドネシアに行くときに、CAさんがコックピットに連れて行ってくれた。その時の思い出が強烈に残っていて、その経験をとおして、飛行機が好きになった。そういう経験を踏まえて、就職活動を前に、どんな仕事に就きたいかを考えたときに、自分が小さい頃から好きだと思っていたことに関わる1つが航空会社であり、かつ、自分が感じたような喜びを提供できる一員になれたらと思った。

【②大学で勉強していた知識・経験が、今の会社で発揮できると思った】

大学では「モノづくりの現場において、どうしたら生産性を向上できるか＝カイゼン」ということを学んでいた。丁度、大学院で勉強していたころ、モノづくりのカイゼンの考え方をサービス産業にも展開していこう、と国が盛んに言い

始めたころだった。であれば、まだまだカイゼンに対する考え方が弱いサービス産業であれば、自分の学んだ勉強が重宝されるだろうと思った。⇒①・②がきっかけで航空会社に行きたいと思った。

青木 ・SE(システムエンジニア)という職にこう思ったきっかけ：
一どちらかという消去法。
一元々、営業職のような人とのコミュニケーションをメインにする仕事は自分にはあまり向かないなと漠然と思っていた。また、「何かを作る」ということにワクワク感があり、その中でもこれからホットになるIT系に興味を湧いたため。
・今の会社に入社しようと思ったきっかけ：
一前職(富士通)では、ベンダーという立場で顧客にソリューション提供をしていたが、勤続5年目を迎え、ある程度仕事が自分で回せるようになってきた時、ベンダーという立場だと、顧客の課題解決だけではなく、自社の売上をセットで考えなければならない立場のため、なかなか課題の根本的な部分だけを考えるのが難しいと感じるようになった。また、自分がいた部署はシステムそのものに触る機会は多くなく、プロジェクト管理や契約手続き、顧客折衝等がメインだったため、技術面での向上が難しいと感じていた。
一一方、現在の会社はクライアント企業のため、自社の課題に対して100%解決に取り組めることに加え、できる限り自分たちでシステム構築や運用を行っていくという風習があるため、技術面でも向上が見込めるのではないかと感じたため。

3. こういう大学生に我が企業に来てほしい、皆さんが(もしくは企業が)一緒に仕事をしたいと思う人材像は?

浦野 物事を表面的ではなく本質で考えることができる人。多角的な視点(広い視野)を持っている人。主体的に動ける人。自分の芯を持っているが、素直さも持ち合わせている人。

大野 好奇心・挑戦心のある人材と一緒に仕事をしたいです。
ICT(Information and Communication Technology)を用いて未来を創っていく会社なので、将来を創造しながら一緒に創っていける方に来てほしいです。

岡庭 元気でコミュニケーション

が取れる人。頭が良く大学を出ていてもコミュニケーションが取れなければ組織では生きていけない(そういう人は独立してやればいい)。コミュニケーションが取れば、分からない事は先輩がある程度教えてくれる(自分で解決する能力も重要だが)。

野口 何でもやってみよう!という感じで仕事を選び好みしない人。話すのが好きな人。公務員はコミュニケーション能力が結構求められると思います。

渡邊 小さな約束の積み重ねを守る人。周りとしつかり相談しながら、落としどころを一緒に見つけられるような人。自然に報告ができている人は吸収も早く、チームで活動する時ののびのび業務に取り組んでいる気がします。

中島 体力的にもキツイ仕事なので何があんでも食らいつつこうとする気持ちが強い人です。

橋本 「子供の頃、親や学校の先生から教わったベーシックな事がしっかりできる人、が大前提」
世の中、ものすごいスピードで変化をしていっている。その中で、生き残っていくためには、企業は常に進化していくことが求められている。そういった時代だからこそ、どこの企業でも「新しい価値を生み出すために、失敗を恐れず果敢に挑戦できる人」を求める人材像として、あげていると思う。
そこは勿論必要だと思うが・・・やっぱり人間同士で働く、チームで働くので、「正直でありなさい」「うそはつくな」「人を騙すな」「約束を守る」「他人を思いやる」といったような、子供の頃、親や学校の先生から教わった非常にベーシックなことがしっかりできる人、が大前提だと感じる。そういった基礎が備わっていない限り、いくら優秀でも働きたいとは思わない。つまり、そういっ





たベーシックなことがしっかりできる人、が最低条件なんだろうと思う。

青木 1. 知識欲がある一仕事をしているとわからないことだらけだが、わからないことをわからないままにしておくのは個人としての成長も望めないし、同じミスを繰り返すことになり周りからも信頼されなくなる。

2. 論理的思考力がある—1にも関連するが、新規サービス立案や既存サービス改善にはかならず“課題”がつきまとう。その課題の本質を捉えるためには、「なぜその課題が起きているのか」というのを紐解いていく必要があるが、それには1の知ろうとする力と論理的思考力が欠かせない。

3. コミュニケーション力—結局、仕事は人と人で行うことがほとんどであるため、コミュニケーション力は必要。ただ、私が考えるコミュニケーション力は「話が上手いこと」という意味ではなく、「人とディスカッションができること」と捉えている。そのためには「相手の話を聞き、本質を捉え」、「自分の意見を伝えることができる」ことが大事であると考えている。そのため、仮に口下手であったり、端的な説明が得意でなくても、それはあまり問題にならないと思う。そのため1と2の方が重要と考えている。

4. トシコー時代の人脈が現在役に立つことがあるか?——社内の先輩・後輩・取引先、プライベートも含めた友人関係、など

浦野 仕事では大きな出来事はなし。プライベートでは今でも食事に行ったり電話をしたり、お互いを高め合ったり、仕事の悩みなどを体裁を気にせず本音で話せる唯一の仲間。

大野 同じ会社にトシコーの同級生が4人います。たまたま就活後に再会したことや会社の就活の手伝いをしたこともあります。プライベートでは旅

行代理店勤務の友達にプランを見繕ってもらったりといまだに多くの関わりがあります。

岡庭 コロナ禍以前は中高の友人と年数回会うことはあった。仕事での発注者や同業他社に中高の同期はいるが、直接やり取りをしたことはない。

野口 仕事で直接的な関係ないですが、旅行

に行ったり、飲みに行ったりと関係は続いています。最近では出来ていないですが…

渡邊 プライベート：同級生や部活の上下繋がりは、今でも旅行へ行ったり、SNSで日々のやり取りをしたりと大切なものだと思います。就活のときに、志望業界が近い同級生は、お互いの情報共有が役立ちました。

取引先：相馬先生にはお話しましたが、今回同席する野口とは昨春、たまたま仕事で顔を合わせる事となり、非常に驚きました。思い返してみれば、高校時代は仲が良かったものの、大学4年間は全く会うことがなく、社会に出てからまた会うようになり、結婚式では高校時代のスピーチをしたりと…空白期間を経て、人はどこでまた出合いがあるのかわからないもので、不思議なものです。

中島 なかなか仕事柄トシコー時代の知り合いに会うことは少ないです。ですが受験勉強を一緒にした友達とは今でも近況報告をしています。

橋本 「今でも、何かしらで、必ずトシコーとつながりがある」

会社の同期・後輩に、トシコーのメンバーがいる。プライベートでも、ものすごく仲が良く、旅行もたくさん行ったり、今でも月に1回は飲みに行くし、酔っぱらってアルママタを歌う。かつ、仕事でも、年次が近い長谷川・重田が優秀と聞く。トシコーどうしあいつには負けられない、といった変なライバル心もあって、切磋琢磨し合える仲間である。

共通のトシコーという過去があることで親密になれるし、そこで得る絆は深いものがある。

青木 非常にある。自分は部活の先生(中山先生や小泉先生など)・部活のコーチ(ムサコーOB)・先輩・同級生など割と付き合いが多い方だと思う。会ったり、連絡を取る頻度自体は決して多いとは思わないが、それでもいざ会えば思い出話(バカ話とか先生に怒られた話とか)に花が咲き気晴

らしにもなる。また、人生で本当に困ったときに気兼ねなく相談でき、的確なアドバイスとかをくれるのはトシコ時代に出会った方々じゃないかなあと思う。自己形成された中高時代を一番知ってる(=自分の本当の性格を知ってる)のは大きいと思うので、総じて言えるのは心のセーフティネットになっているというイメージがある。

5. 自分の経験で「中3の後輩たちにぜひ伝えたいエピソード」があれば教えてください。

浦野 第一志望の国立大学にはあと3点で不合格となり芝浦工大に進学したが、第一志望でなかったからと言って決して悪い人生を送ったかと言うとそう言うわけではない。むしろ進学したからこそ今の人生があるとも言える。ただ、入学試験というのはある一定層をふるいにかけることと等しいので、難関大学に進むと言うことはより志の高い人たちと知り合い、より質の高い教育を受けられることができ、人生の選択肢を増やすことができるので、ぜひそのことも念頭に置いて来たる大学受験に向けて少しずつ備えていって欲しい。そして、「後で悔やむ」ことがないようにその瞬間瞬間、どうするのがベストなことかを考えて行動をして欲しい。

大野 高校になると勉強の難易度も高くなって多く時間を割くと思いますが、常に自問自答を行って自分がやりたいことを探していってください。好

奇心をもって追求することはきっと将来役立ちます。

岡庭 コロナ禍が落ち着いたら(大学生くらいになったら)、色々な国に行ってみてください。日本の良い所・悪い所が見えてくるし、自分たちが恵まれた環境であることを実感する。萩原先生の奥様は、自分が中学生の頃の家庭科の先生でした。

野口 大学生になってから、特に国立だったので、さまざまな家庭環境の人たちと接する中で、中高私立に通わせてもらった自分がとても恵まれていると気がついたことでしょうか… 学ぶ機会をたくさん作ってくれた両親に感謝しています。

すみません、他に思いつきませんでした…

橋本 「模擬試験・定期テストは、高い順位を取ることが目的ではない」試験の順位が出ると思うが、自分は、一時期「あ～前回より落ちちゃった」「次もこのくらいの順位取らないと」とか、やたらと気になって、変なプレッシャーになったことがあった。同じように感じる人もいるかもしれない。でも今考えると、試験の順位は、高い順位を取ることが目的になっていたから、プレッシャーを感じていたのだと思う。試験の順位は「自分の目標＝どんな仕事をしたい → どんな大学・学部に行きたい」に対して、「自分がどこにいて、この先何をしないといけないか」を知るための、バロメーターに過ぎない。落ちたとすれば「次に向けて何をしなきゃいけないか、考えるきっかけがもたらした」くらいに考えていければ良いと思う。



第46回総会報告

今回の総会はCOVID-19対策で、議案書をホームページに掲載(掲載期間2021年4月11日~5月10日)し、会員の承認を得ることとした。その結果、承認を得た。

2020年度(2020年4月1日~2021年3月31日)活動報告

1. 同窓会総会は、COVID-19のために開催を中止した。総会での承認が必要な事項は、“議案書”をホームページに掲載して承認を得た。
2. 会員の親睦を図るための総会後の懇親会は、COVID-19のために中止した。
3. 理事会を7回開催した。(内1回は、臨時理事会)
4. 機関紙「柏」(71号、72号)を発行した。(HPにも掲載)
5. 母校の「柏苑祭」への参加は、COVID-19のために中止した。
6. 母校の「キャリアスタディ」に協力した。

2020年度(2020年4月1日~2021年3月31日)決算報告

一般会計報告(収入の部)

科 目	予算額	決算額	内容
入 会 金	2,370,000	2,370,000	67期生237名
引 継 金	3,633,349	3,633,349	前年度より
キャリアスタディ	1,250,000	1,200,000	
雑 収 入	600,000	54,695	同窓会懇親会費、利息その他
合 計	7,853,349	7,258,044	

一般会計報告(支出の部)

科 目	予算額	決算額	内容
会 議 費	300,000	31,000	理事会1回その他
交 通 費	10,000	0	
総 会 費	100,000	0	宅配便等雑費
『柏』制作費	30,000	0	編集委員会
通 信 費	10,000	14,130	
印 刷 費	350,000	237,050	柏71号,72号各1,700部,規約350冊
事 務 費	100,000	55,540	銀行手数料その他
事務局活動費	30,000	24,000	
同窓会賞費	10,000	0	
小委員会費	100,000	0	
名簿整備費	40,000	0	
柏苑祭費	50,000	0	
HP維持費	40,000	35,750	
会員交流補助費	1,900,000	0	懇親会参加費を含む
キャリアスタディ	1,250,000	189,000	
基金へ繰入	500,000	500,000	
予備費	100,000	1,041,000	同窓会懇親会費及びキャリアスタディ経費返金
繰越金	2,933,349	5,130,574	
合 計	7,853,349	7,258,044	

基金会計報告(収入の部)

科 目	予算額	決算額	内容
繰 入 金	500,000	500,000	
引 継 金	1,500,011	1,500,011	前年度より
雑 収 入	10	16	預金利息
合 計	2,000,021	2,000,027	

基金会計報告(支出の部)

科 目	予算額	決算額	内容
取 崩 金	0	0	
繰 越 金	2,000,021	2,000,027	
合 計	2,000,021	2,000,027	

上記の通り2020年度会計を報告いたします。

2021年4月2日

会計代行 佐々木 幹夫

会計監査報告

前記会計内容を監査の結果、正しく表示、記載してあることを認めます。

2021年4月3日

会計監査 長谷部 伸一

2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日)活動計画報告

1. 同窓会総会はホームページに議案書を掲載して承認を得る。
2. 会員の親睦を図るための懇親会は、COVID-19の蔓延防止のために中止する。
3. 年6回の理事会を開催する。(必要により、臨時理事会を開催する。)
4. 年2回機関紙「柏」を発行する。(HPにも掲載)
5. 母校の「柏苑祭」が開催されれば参加し、同窓会賞を贈呈する。
6. 母校の「キャリアスタディ」に協力する。
7. 母校のクラブ活動を支援する。

2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日)予算案報告

収入の部

科 目	予算額	内容
入 会 金	2,850,000	68期生285名
引 継 金	5,130,574	前年度より
キャリアスタディ	1,200,000	企業訪問なし
雑 収 入	20	利息等
合 計	9,180,594	

支出の部

科 目	予算額	内容
会 議 費	30,000	学校との打合せその他
交 通 費	10,000	
総 会 費	0	宅配便等雑費(総会はWeb開催)
『柏』制作費	10,000	編集委員会
通 信 費	30,000	Web会議ツール他
印 刷 費	250,000	柏73号,74号各1,700部,規約350冊他
事 務 費	6,000	銀行手数料他
事務局活動費	30,000	
同窓会賞費	0	柏苑祭実施の場合は、既購入品を充当する。
小委員会費	0	
名簿整備費	40,000	
柏苑祭費	50,000	柏苑祭実施の場合
HP維持費	3,000,000	改修費含む
会員交流補助費	0	総会懇親会中止
キャリアスタディ	1,200,000	
基金へ繰入	500,000	
予備費	100,000	
繰越金	3,924,594	
合 計	9,180,594	

基金会計(収入の部)

科 目	予算額	内容
繰 入 金	500,000	
引 継 金	2,000,027	前年度より
雑 収 入	10	預金利息
合 計	2,500,037	

基金会計(支出の部)

科 目	予算額	内容
取 崩 金	0	
繰 越 金	2,500,037	
合 計	2,500,037	

理事: 理事は、“東京都市大学附属中学校・高等学校同窓会規約附属書”に記載の“同窓会役員名簿”のとおり。(ホームページをご覧ください。)

* 同窓会ホームページ

<http://tcu-kasiwa.org/home/index.html>



★来年度の
総会・懇親会案内

日時: 2022年5月21日(土曜日) ただし、COVID-19の状況により中止の場合あり。
総会: 16時開始 懇親会: 16時45分
場所: 渋谷 エクセル東急ホテル 東京都渋谷区道玄坂1-12-2 (渋谷マークシティ内)